

第1回地域づくり交流会

■昭島市老人クラブ連合会■

平成24年7月26日(木)17時30分
市役所205会議室

■市老連)

座間康臣会長、清水勇作副会長、五十嵐和夫副会長、
西原竹春副会長、大澤義雄常任理事／5名

■自治連)

小野正敏会長、嶽山俊夫副会長、宮田次朗副会長、
指田準副会長、大野利男会計、飯島五六顧問、黒岩
茂顧問 /7名 計12名

●小野 自治連会長の挨拶

今日は本当に暑い中、ありがとうございます。いつも老人クラブ連合会(以下、市老連)の皆様には色々お世話になっております。今日は情報交換をしていただきたいと思います。

皆様ご存じのように、昭島市も他市と同様な、災害時要援護者制度があり本年4月1日現在で801名の方が登録されており、立川市が5,500名、国分寺市は1,800名、昭島市はまだまだ登録されていない方が多いのかなとの感じを抱いております。

また、都から平成24年4月に出了た被害想定では、立川断層が動いた多摩直下型地震が発生した場合災害時要援護者の方死者数は昭島市が72人、立川市が108人、国分寺市が66人と、かなりの数字が出ております。

それともう一つ気になっていますのが、立川断層が動いたときに、自力で脱出が困難となる人が、昭島市で4,648人発生すると想定されています。この数字を見てびっくりしまして、これは何か早急に手を打たなきゃいけないと考えております。今までどっちかと言えば、登録された災害時要援護者だけについて見ても、こんな想定ですので、それ以外にも、災害時にハイリスクグループの方等を含めると、この数字はもっと増えてきます。

こういう状況にありますので、防災については市老連の皆様と手を取り合いながらやることが必要と考えておりました。急遽こういう会議を持たせていただきました。今日は忌憚の無いご意見をお聞かせいただきたいと思います。よろしく願いいたします。



●参加者自己紹介

●市老連の現状紹介……座間 市老連会長

平成24年4月現在、昭島市老人クラブ連合会は、55クラブ会員3,932名であります。

健康・友愛・奉仕・会員増強(組織対策)の4つを基本として活動しています。総務部、教養部、社会奉仕部、スポーツ部、レクリエーション部、女性委員会体制で、昭島市を東部、中部、西部の3つのブロックに分けています。

まず**会員動向**です。平成10年から20年間の10年間で全国では12,132の老人クラブが、東京都では171クラブが夫々減っています。会員は、全国では124万5千人が、東京都で6万4千人減っていて、平成9年をピークに大変大きな数字で減る傾向が続き歯止めがかからないのが現状です。

昭島市では新規クラブの設立を自治連や自治会にも協力いただき、平成16年4月以来、おかげさまで新設クラブがほぼ毎年あります。また、自治会の27地域にシニアクラブが結成されていません。是非老人クラブ活動を市内全域に広げたいと努力しています。

なお60歳以上の高齢者で30人以上あれば老人クラブ組織として結成できます。もしくは隣

接の老人クラブへ入っていただくというような方法もあります。今年度も未設置地区 11 自治会のクラブ設立を目指し、自治連・自治会との連携を続けてまいりたいです。

24 年度自治連総会の議案に「老人クラブの未結成地域をなくしていく活動の協力」との力強い計画の推進を含めていただきました。

未加入地域の自治会へ依頼状や会報を送り訪問等行い、市老連では組織対策会議や組織対策委員会で、情報の収集や共有化を図りながら、設立を進めてまいります。

新規クラブとともに、既設クラブの加入促進を図っていくことが、会員増強上、重要なことです。既設クラブでの加入促進を強力に展開することをしないと、クラブの活性化にもつながらないし、また会員の増にも結びつかないので力点を置いております。

既設クラブの加入促進の結果、純増 10 名以上が 8 クラブ。5 名以上が 8 クラブ、そして新規会員加入 5 名以上が 16 クラブありまして、表彰対象は実に 32 クラブでした。新たに実施した表彰制度の効果があったものと評価をしています。その結果、全国老人クラブ連合会「2012 活動賞・仲間づくり活動部門」で、表彰(平成 24 年 11 月 6 日)が決定しました。

市老連の活動は、社会奉仕活動、友愛活動、等地域に貢献する活動の強化／自治会活動等、地域活動への積極的な参加協力／自治会長役員や民生委員との連携強化等、地域の団体との連携、参加協力等地域貢献に今後とも力を入れてやってまいりたい。勿論クラブの行事・活動の活性化は基本です。

その他、解散クラブをどうしていくか若手リーダーや後継者づくり、対外的には会報とかリーフレットの配布、あるいはホームページの作成・発信があります。また行政との情報交換や支援要請、関係団体との情報交換や連携等も極めて大切と考えます。以上でございます。

●自治連の現状紹介………小野 自治連会長

自治連は、いま 99 自治会ありますが、自治会ごとにそれぞれ特色のある運営を行っていますし、加入率の向上についても必ずしも足並みのそろった進め方になっていません。

そのような事をなくす為“自治会運営ハンドブック”を作成し自治会長に配布しています。自治会をどういうふうに運営していったらいいかというマニュアルです。

また、1 年間の全体計画と各委員会(総務・事業・防災・広報)の活動計画も明確にしております。

本年は、地域防災の基本の“顔の見える関係づくり”が見守り活動と防災隣組活動の基本ですが、一部の自治会で少しやり始めています。ミッションとしては、平常時は高齢者に対する緩やかな見守りを行い、災害発生時は、安否確認と火災発生時の初期消火を行い、必要があれば救助活動の実施を考えております。

現在ある自主防災組織の中で、この防災隣組を立ち上げていきたいと考えております。隣組の単位は 5 所帯から 8 所帯くらいを一つの単位として顔の見える関係づくりのために回覧板の回し方を見直していきます。

それをだんだん拡大して行って、班内での防災座談会だとか、防災・減災を中心に話し合う場を設けていきたいと思えます。

特に、一人住まいの高齢者の方に対する緩やかな見守りについては、是非老人会、市老連のご協力をお願いいたします。

また、災害時要援護者に手を挙げてない方で災害弱者と考えられる人達、また、自治会員でない方への対応を検討していく事が必要です。



いちばん大きなテーマであります防災隣組の計画についてお話をさせていただきました。

これは、特に東京都の助成金を活用して行いますが、これに関連した研修会も、10 月 6 日に市

民会館の大ホールで計画しています。防災・減災対策とか、加入促進のPR保存版のパンフレットと、自治会運営ハンドブックの改訂版も防災関連を中心に8ページ増やしたものを11月に向けて準備しています。以上でございます。



<参加者の意見交換>

●市老連) 加入の年間の数字等は、東京都では、実はトップなのです。昭島市内の全域で老人クラブを作って活発に活動していただくことが、自治会を退会する歯止めにもなる。自治会役員をやった人でも、75歳から80歳にもなると、もうお役目が済んだと引退だよと言いかねない。だけど老人クラブがあれば、次の受け皿として地域に関わっていくことができます。

それから、防災・減災とか色々なことを進めていく中で、高齢者の団体で限界がありますが、独居の老人とか、高齢世帯の把握とか、災害時要援護者リストに該当の人は、老人クラブのお役目も出てくるとか、昼間発災時、若い人たちがいない中で役割は老人クラブとしてもあるのではないかと考えております。防災隣組は、自治会とか老人会に関係なく、取組んでいきたいと思っておりますので、是非その点もPRをお願いします。

●自治連) 一つの老人クラブの人数、大体50～60人というのが平均なのでしょうか？

●市老連) 平均人数ではもう少し多いか、100名以上が8クラブあります。クラブ結成人数は30名以上です。夫婦で15世帯入ってもらって30名となります。老人クラブの補助金をもらい

ながら、老人会の活動をはじめ、自治会の活動もやっていくことが効果的と思っております。

●自治連) 自治会長の任期期間は、1年か2年で約7割にあたり、自治会長の継続は自治連としても大変苦勞していますが、老人クラブの会長を継続していただける年数は、結構長いのでしょうか。

●市老連) 長い人は10年以上。1、2年で辞められる方もおられますけれども、どちらかと言うと単年で辞められる方は少ないかもしれません。

●自治連) リーダーによってクラブは、全然違ってきますよね。自治会もそうですけど、市老連としてリーダーの育成の取り組みはいかがですか。

●市老連) なかなか若い人が入ってこないのが、高齢者を養成することが難しいですね。定年になる歳も伸びましたので、「まだ老人会入る歳じゃないよ」とか、「まだ働いているのだよ」とかで、なかなか60代前半で会員になる方が少ないのですね。

●自治連) 自治会に入っていないけども、老人会には入っている人も結構多いのですか。

●市老連) たくさんいますね。クラブによっては、自治会の下部組織みたいにしてあります。自治会会員でないとクラブ会員にはなれないという制約もあるようです。自治会はもういいので、老人クラブだったら入りたいという人もいます。

●自治連) “孤独死とか孤立死”がマスコミで大きく取り上げられました。この件をどうお考えですか。

●市老連) 昭島でも数件発生しております。自治会に入っていると、老人会に入っていると関係なく、この問題はこれからも起こります。

●自治連) いまの孤独死ですか、マスコミに取り上げられている以外にも、現場的には多いのでしょうか。



●市老連) 現実的にはそうだと思います。地域としてほっておくわけにもいかない。少なくともそういうのを予防する見守り活動というのは、地道にやっつけていかなければと思います。私のクラブでは、会員の状況を2年に一度、全員からどういう状況なのかという、一人暮らしなのか、病弱なのか、あるいは災害時に自分で避難できるかどうかというのを含めて、全部アンケートをとって約80%の回収率です。強制できませんからね。会員以外の方も含め、隣近所での向こう三軒両隣に関心を持っていきましょと、折に触れて話をしています。それが会員増加につながり、会員になることによって、自分の安全というのが確保できるという可能性が増すこととなると思います。

見回り活動が、老人会らしい活動の一番大事な部分だと思います。行政も事件があると見守りをなんとかしなくてはと、招集かかったりする。日常的に全市的に実施することが大切です。やはり隣組を取り組まないことには、いつまでたっても同じことです。

●自治連) 3.11の大震災、その後のマスコミ、テレビ等で有事の際の自治会等の地域組織、また防災隣組のつながりとか、“地域の絆”がいかに大切か。災害時の復興に、それが力になっていることが感じています。年代がどう変わっても、お年寄りの力っていうのは、地域のために本当に大きな力になっていると思います。私どもの自治会でも老人会がありますが、老人会の力なくして自治会活動はやっていけません。

公益社団法人の昭島市シルバー人材センターの現状は、平成24年6月末現在1,086名の会員が登録されています。最近政府も65歳以上はみんな老人だという考えがなくなって、65歳以上で元気な人は支え手のほうに、担い手のほうに回っていただく流れがあります。丁度今年は団塊の世代がたくさんシルバーに入ってくるのが予想されます。昭島市は、他市と比べまして、公共事業をたくさんいただいております、駐輪場、学校

管理、公園除草清掃、エコパークの仕事もそうです。それと社会にどのような貢献と奉仕をしていくかが非常に問われる時代です。いま子供たちの下校時の見守りを約300人位でやっています。とにかく、年寄りが元気でやっていかなきゃいけないと思います。

老人クラブの素晴らしい助け合いの仲間、こういった仲間の老人会がどんどん衰退し、退会していく原因はどういったところにあるのでしょうか。

●市老連) 色々分析がありますけれども、昔と違ってお年寄りも遊びが多様化している部分と、20~30年前は、家族で旅行に行くなんてことも中々なかったので老人クラブに入って旅行を楽しんでいました。2つ目は、65、70、75でも働いている人たちが結構多くなっています。3つ目は、なかなか魅力あるクラブづくりができていないという我々の運営側の反省もあるのだろうと思っています。

●市老連) 役員が回ってくの、入らない人もいます。また若手の会員が入会しないと、会長自身も高齢化でバトンタッチしようとしても、なかなか次の人がいない中、解散になるケースもありました。また、新会員増が継続しないと、なかなかクラブ運営がうまくいかない。今後は若い世代が



入ってもらえる魅力あるクラブづくりと、ゴルフ大会等の開催で一つの加入のきっかけにしたい。後継者づくり、若手のリーダーづくりも、非常に大きな課題になっています。

●自治連) そういう点では自治会と同じですよ。

●市老連) シルバーパワーを大いに発揮して、シルバーパワーが、地域を支えているのだということをお大いにアピールしたいですね。

●市老連) 年齢的に65、70でもまだ若い。ひとまずボランティア活動にお手伝いしていただきたい。家庭でも、子供が祭りや子供御輿をやる

際は自治会に入り、子供御輿を卒業したら自治会も退会してしまう。いずれにしましても、何らかの形で、コミュニケーションの場を設けて、隣の絆を深めるように心がけないと、組織維持が大変になってしまいます。

●自治連) 組織はみんな同じですね。今どんどん子供が少なくなり、子供会の人数も減っています。自治会も子供会も、何か手を打たなければいけないですね。

●自治連) 私の自治会では幼稚園や保育園に通っている間に何回か加入のお願いに訪問していますが、「子供が学校でも上がってから考えますよ」とかで、なかなかいい返事をいただけません。また、老人クラブと自治会と合同での防災訓練というようなことも、いま考えているところでございます。

●市老連) 老人クラブ会長と民生委員をやっていますが、民生委員と老人クラブの友愛活動がほぼ似通っています。しかし民生委員は私の地域担当は1人で回らなければいけない。だけど、老人クラブの場合は、協力してくださる皆さんで手分けして訪問活動ができますね。

●市老連) 皆さんで協力し合いながら、こういう活動を進めていくというのは、特に、1人でも多くの人を加入していただいて、皆さんで、本当に地域の見守り等も多く進めていければということも考えております。地域包括センターの活用も大事ですね。

●市老連) 昭島駅のちかくですが、自治会と老人クラブは、大変日頃から情報交換が、非常にうまくいっています。旅行に行っても、自治会だか老人会だかわからないような状態で、高齢者が多いです。



●自治連) 市老連のほうから、自治会の中で一つずつ老人会を作ろうよと勧められ、自治連のブックで一斉にその運動をやりました。その間、やっぱり老人クラブでも資金力の問題もあり、地元の自治会で毎年、補助金を出しております。老人クラブとは、いわゆる同根という形ですね。根っこが同じで、活動していかなきゃいけないだろうと思います。

介護保険との関係、市役所の生活福祉課との関係。それから、介護施設との連携、ケアマネジャー、その他の連携が必要ですね。

●市老連) 元気な人だけ老人クラブでいいということではなく、元気な頃から入って支え手になって、やがて、支えられる側に回ると。

昔は、老人クラブってというと、みんな支えられる側のみでしたが、老人福祉法などができた頃から、老人に対して補助金を出して支えてあげようという発想だったのですが、今は支え手の側にも回っていく両面をもって、いま進んでいます。

老人クラブも見守りや、あるいは高齢世帯を抱えながらやっているという活動の反面、新しい人が継続して入ってこないとなかなか長続きしていかない。保健福祉部の介護福祉課との連携とか、民生委員との連携とか、また包括支援センターとかいう、新しい仕組みとの関わりも、これから大事になってくるのだろうと思っています。

●市老連) 地域の問題として、みんなで考えていくということがいちばん重要なので、本日の会でも問題点を自治連と市老連とで共有することが大切です。いわゆる地域の支え手としてのコミュニティを構築していくことが大切です。知識だけではダメで、組織の総合力でやっていかないとと思っています。

いざというときには、遠くの親戚よりも近くの仲間です。いろんな活動をするということが健康を保つ秘訣でもあります。魅力あるクラブにしていけないといけないと思います。

●市老連) ひとりの民生委員は、400人前後抱えています。老人クラブに入会を勧めただけ

る民生委員の方もいます。

民生委員と老人クラブと、あるいは自治連と、コミュニケーションの場、いわゆる三者の絆というような形で、コミュニケーションの場も今後とも必要ですね。グループ的に地域の絆という考え方が全体的にカバーできると思います。

●自治連)老人クラブの平均年齢がわかっておられたら、教えていただきたい。

●市老連)全体の数字は取っていません。実はばらつきがあって、高齢化が進んでいるところと、平均年齢が68~69歳というところもあります。

●市老連)一人暮らしっていうのは、いちばん困ります。黙って出掛けて何週間も帰ってこない。いま一人暮らしの人が多く、また昼間1人の方も増えています。それがちょっとクラブとして頭が痛く、心配しています。

2週間以上空けるときは、届けるようお願いしています。

●自治連)民生委員で集合住宅を回っていると「うちの隣の人誰、どんな人って」よく聞かれます。

●市老連)“防災隣組の構築”をレビューしながら色々検討していくということは、大変良いと思います。

■締め挨拶 小野会長

今日はどうもありがとうございました。やはり、行政と地域というものを、やはり行政は縦割り構造で、民生委員は民生委員、市老連は市老連、自治連は自治連っていうふうな感じになっています。それをやはり何らかの形で“横に繋いでいきたい”ということで、地域づくり交流会を設けました。これからも年に1~2回集まって、情報交換を色々やらせていただきたいと思いますので、これからもよろしくお願ひしたいと思います。

今日は、どうも本当にありがとうございました。

以上



交流会終了後の記念撮影